

令和2年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

令和3年4月30日現在

研究課題名	19世紀末～20世紀ロシアにおける近代の超克—超越性を中心に				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	北井 聡子		大阪大学・講師		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	北井 聡子	大阪大学・講師	ロシア文化史 ジェンダー	研究統括
	2	安岡 治子	東京大学・元教授	ロシア文学 正教思想	班員
	3	大森 雅子	千葉大学・准教授	20世紀ロシア 文学・演劇	班員
	4	宮川 絹代	札幌大学女子短期大学部・ 助教	ロシア亡命文学	班員
	5	浜田 華練	日本学術振興会特別研究員 (PD)・オックスフォード大 学 客員研究員	東方キリスト教思 想・コーカサス宗 教史	班員
	6	杉谷 倫枝	横浜国立大学・非常勤講師	20世紀ロシア文 学・記号論	班員
	7	細川 瑠璃	東京大学・非常勤講師	ロシア宗教哲学・ フロレンスキー	班員
8	安達 大輔	北海道大学 スラブ・ユー ラシア研究センター・准教 授	18世紀～現代ロ シア文学	アドヴァイ ザー	

研究成果の概要

本研究プロジェクトでは、ロシア文学や思想における「境界を超える志向性」を共通テーマとし、各班員が個（личность）、亡命文学、正教思想、時間と空間、ジェンダー等の個別の課題に取り組んだ。研究成果は、プロジェクトの期間中に実施した研究会（2020年5月5日）と、オンライン・シンポジウム「境界を超えるロシア」（2021年3月21日）における報告の他、下記の研究論文としても発表している。シンポジウムは二部構成であり、一部は、文学作品における超越性を検討すべく、まず北井がトレチャコフの『子供がほしい』における欲望の循環と女性の抑圧について考察し、次に杉谷が、フレイデンベルグとパステルナークの従兄妹同士の書簡のやりとりが、パステルナークの作品へと結実してく様を明らかにした。宮川は、I・シメリョフの『主の年』を取り上げ、

研究成果の概要（続き）

ロシア正教と結びついた記憶や色彩のイメージの分析を通じ、時間や空間を越える亡命文学の特徴を浮かび上がらせた。シンポジウム第二部は「越境するロシア正教—地理的・概念的“普遍”を求めて—」と題したワークショップが行われた。ここでは班員以外にも畔柳千明（東大、博士課程）、居阪僚子（東大、教務補佐）が参加し、19世紀-20世紀初頭のロシア正教における「普遍性の追求」と「越境」を主題とした4つの研究発表がなされた。まず地理的・文化的な「越境」の事例として、畔柳による「在北京ロシア宗教施設団」の活動と居阪によるオセチアの「正教復興」に関する報告があり、続いて浜田は「エルサレム宗教使節団」の活動が、ロシア正教の修道主義復興に与えた影響を論じ、最後の細川はフロレンスキイの思想における宗教的経験としての「越境」の概念を検討した。また一部と二部の報告の後には、コメンテータの大森と安岡が発表者と討議を行った他、会場からも多くの質問がでて活発な議論が行われた。本プロジェクトは、コロナ禍の影響で、当初予定していたロシアでの資料収集等は実現できなかったものの、オンライン開催となったシンポジウムには海外からを含む90人程度（述べ）の聴衆の参加があり、全体として実り多きものとなった。このような機会を提供して下さったスラブ・ユーラシア研究センターに深く感謝申し上げます。プロジェクトの研究は今後も取り組む予定であり、論集として出版することを目指している。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

雑誌論文

- ① 北井聡子「巡る欲望—S・トレチヤコフ『子供がほしい！』における女性の抑圧」大阪大学大学院言語文化研究科編、言語文化研究科共同研究プロジェクト『Cultural Formation Studies III』（2021年5月刊行予定）。[シンポジウム「境界を超えるロシア」での口頭発表に基づくことを記載]
- ② 安岡治子「ロシア文化におけるリーチノスチ」東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要Odysseus第25号、2021年3月30日刊行、pp. 35-43。[謝辞なし]
- ③ 細川瑠璃「魔術とリアリティー—フロレンスキイの魔術論」『思想史研究』28号、p. 55-66、2021年2月。[謝辞無し]
- ④ 浜田華練『『異端』、『正統』、そして『教会合同』—19世紀ロシアにおけるアルメニア教会をめぐる言説』『ロシア史研究』第106号（2021年5月刊行予定）、30-64頁。[謝辞なし]

図書等（分担執筆）

- ① 安岡治子『反米 共生の代償か、闘争の胎動か』、遠藤泰生編、東京大学出版会、2021年3月31日刊行、「ロシアの『反米』——独自の道を求めて」、pp. 233-266。[謝辞なし]
- ② Омори М. Роман М. А. Булгакова «Мастер и Маргарита» в контексте космологии П. А. Флоренского // Роман М. Булгакова «Мастер и Маргарита»: диалог с современностью: коллективная монография / Сост. и отв. ред. О.В. Богданова. - СПб.: РХГА, 2020. С. 388-405. [謝辞無し]
- ③ 北井聡子「女性解放史」『ロシア文化55のキーワード』ミネルヴァ書房（2021年6月刊行予定）[謝辞なし]

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

「日本ロシア文学会若手ワークショップ企画支援プロジェクト（2021年度）」、ワークショップ企画名：ロシア正教の「東」と「西」、代表者：細川瑠璃

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。